

競技規則

I 試合進行

1 競技の中断

(1) タイムアウト

各チームは、1セットにつき2回のタイムアウトが認められる。
このタイムアウトは1回につき30秒以内とする。

(2) 選手の交代

各セットの選手交代は、4回以内とする。
ただし、常に競技者の条件を満たしていなければならない。

2 コートの交代

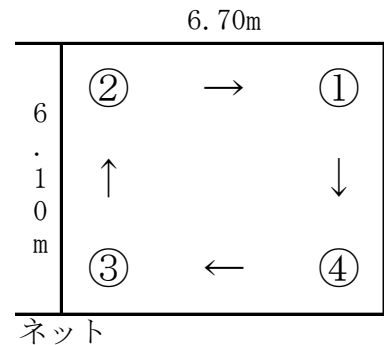
セットごとにコート进行を交代する。最終セット（1対1の後の第3セット）はいずれかのチームが8点になった時点で交代する。

3 競技者の位置とローテーション

(1) サービスが打たれる瞬間には、各チームはサーバーを除いて2人ずつ2列に並んで各自のコート内に位置しなければならない。

(2) ネットに沿って位置する2人の競技者はフォワード競技者で、ポジション3（レフト）、ポジション2（ライト）の位置を占める。
他の競技者はバック競技者で、それぞれのポジションに対応するフォワードの競技者よりネットに対して後方に位置し、ポジション4（レフト）、ポジション1（ライト）の位置をそれぞれ占める。

(3) サービス権を得たチームは、図のように直ちに時計の針と同じ方向へ選手の位置を1つずつ移動する。（右記図参照）



II 得点及び勝敗

1 1セット15点のラリーポイント制で3セットマッチとする。

（14対14のときはジュースとし2点差がつくまで行う。
ただし、17点で打ち切り、17点を先取したチームを勝者とする。）

2 万一、負傷などで試合続行不可能の場合には失格とし、相手チームがそのセット（又はその試合）の勝者となるために必要な点数が与えられ、失格となったチームのそれまでに得た得点は生かされる。

III プレー上の動作と反則

1 プレー上の動作

(1) サービス

ア. サービスは1回とする。

イ. サービスはエンドライン後方のフリーゾーンの中の位置からも打つことができる。
ただし、足がラインに触れずに、又は味方のコートに踏み込まない。

ウ. サービスは、相手チームにサービス権が移行するまで同じ競技者が続けて打たなければならない。

(2) アタック・ヒット

4人の競技者はどの位置にいるときでも、ボールを打った瞬間にボールの一部又は全部が味方コート上の空間にあれば、どんな高さのアタック・ヒットでも行うことができる。

- (3) ブロック
4人の競技者は、どの位置にいるときでも、相手のアタック・ヒットの後、ブロックすることができる（オーバーネットは反則）。
- (4) 同時の接触
同一チームの2人の競技者が同時にボールに触れたときは、1回触れたものとみなす。この場合、いずれも引き続いてそのボールに触れることができる。
- (5) 身体のどの部分にボールが触れても良い。

2次のプレーがあったときは反則となり、相手チームに1点が与えられる。

- (1) ネットを越えて相手コートに打ち返すために、ボールへの接触回数が最大限3回を越えたとき（ブロックは数えない）。ただし、ブロック後の1回目の接触は、ブロックのときボールに触れた競技者も含んで誰にでも許される。
- (2) ボール接触中、明らかにボールが止まるようなプレーがあったとき（ホールディング）。
- (3) ネットによって分けられた相手側コート上のボールに触れたとき（オーバーネット）。
- (4) インプレー中にネットに触れたとき（タッチネット）。ただし、相手側の打球によりネットが膨らんでネットに触れたときはタッチネットにならない。
- (5) 明らかに同一競技者が、2度続けてボールに触れたとき（ドリブル）。ただし、チームの第1回目の接触は、身体の2箇所以上に連続して当たってもよい。（その接触は、ひとつの動作中のものに限る）。
- (6) サービスの打球時にエンドラインに足が触れたり、味方コートに入ったとき（フットフォールト）。
- (7) サービスが打たれた瞬間に、それぞれの競技者が正規のポジションに位置していないとき（アウトポジション）。
- (8) センターラインを完全に踏み越したり（パッシング・ザ・センターライン）、ネット下から相手のプレーを妨害したとき（インターフェア）。
- (9) サービスボールがネットに触れるか、相手チームの競技者に触れずに相手コートの外に落ちたとき（サービスフォールト）。

IV 役 員

競技は主審1名、副審1名、線審2名、得点係2名の計6名で運営する。

